41級 1回目

# 古典の知識

〈時間20分〉

学習した日　月　日

点

**1** ――線のひらがなを漢字に直し、漢字には読みがなを書きなさい。（4点×5）

(1) わたり鳥がむれを作る。

(2) 体調不良で試合への出場をじたいする。

(3) ほしい物を買うためにせつやくする。

(4) 計画の半ばで中止する。

(5) 神社や仏閣をめぐる。

| (1) | (2) | (3) | (4) | (5) |
|---|---|---|---|---|
| れ | | | ば | |

**2** 【古文】の――線の読みを、あとの表を参考にして、ひらがなで書きなさい。（20点×2）

【古文】

①九月つごもり、②十月のころ、空うちくもりて、風のいとさわがしく吹きて、黄なる葉どもの、ほろほろとこぼれ落つる、いとあはれなり。

（枕草子）

九月の末、十月の頃に、空が少し曇って、風がひどくさわがしく吹いて、たくさんの黄色の木の葉が、はらはらとこぼれ落ちるのは、たいへんしみじみと心に深く感じられるものである。

| | | |
|---|---|---|
| 春 | 一月 | 睦月（むつき） |
| | 二月 | 如月（きさらぎ） |
| | 三月 | 弥生（やよい） |
| 夏 | 四月 | 卯月（うづき） |
| | 五月 | 皐月（さつき） |
| | 六月 | 水無月（みなづき、みなつき） |
| 秋 | 七月 | 文月（ふみづき、ふづき） |
| | 八月 | 葉月（はづき、はつき） |
| | 九月 | 長月（ながつき、ながづき） |
| 冬 | 十月 | 神無月（かんなづき、かみなづき） |
| | 十一月 | 霜月（しもつき） |
| | 十二月 | 師走（しわす） |

| ① | ② |
|---|---|
| 九月 | 十月 |

3 【古文】の――線の時刻を、あとの表を参考にして書きなさい。（20点）

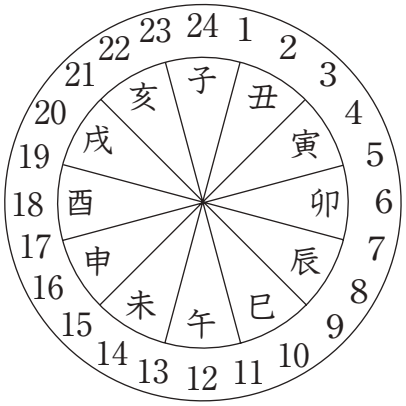
【古文】

ころは二月十八日の酉の刻ばかりのことなるに、風激しくて、磯打つ波も高かりけり。

（平家物語）

時は二月十八日の〔　　〕頃のことであったが、折から北風が激しく吹いて、岸を打つ波も高かった。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 午前〇時 | 子（ね）の刻 | 十二時（正午） | 午（うま）の刻 |
| 午前二時 | 牛（うし）の刻 | 午後二時 | 未（ひつじ）の刻 |
| 午前四時 | 寅（とら）の刻 | 午後四時 | 申（さる）の刻 |
| 午前六時 | 卯（う）の刻 | 午後六時 | 酉（とり）の刻 |
| 午前八時 | 辰（たつ）の刻 | 午後八時 | 戌（いぬ）の刻 |
| 午前十時 | 巳（み）の刻 | 午後十時 | 亥（い）の刻 |




午後十一時から午前一時が「子の刻」、そこから二時間ごとに、丑、寅、卯……と進んでいきます。

この時刻の数え方は現代にも残っています。お昼の十二時ちょうどを「正午」、それより前を「午前」、それよりあとを「午後」と言いますね。

3 酉の刻

4 【和歌】の〔　〕に入る言葉はどれですか。あとの【月に関する言葉】を参考にして□の中のア～エから選び、記号で答えなさい。（20点）

【和歌】

この世をばわが世とぞ思ふ

〔　　〕の欠けたることもなしと思へば

（藤原道長）

この世界をまるで私のための世界であるように思う。満月に欠けている部分がないように、私は完全に満ち足りているから。

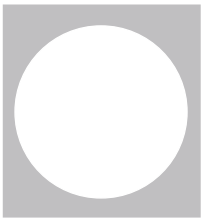
ア 上弦　イ 望月　ウ 十六夜　エ 有明

【月に関する言葉】

◆上弦の月

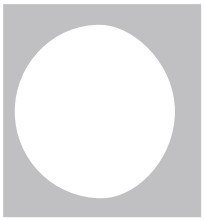
新月から七日目の月。半月。月を弓にたとえると弦が上にくる。

◆望月・十五夜



新月から十五日目の月。満月。

◆十六夜



新月から十六日目の月。

◆有明の月

新月から十六日目よりあとの、夜明けの空に残る月。

4

41級 2回目

# 古文

学習した日　月　日

点

〈時間20分〉

**1** ――線のひらがなを漢字に直し、漢字には読みがなを書きなさい。（4点×5）

(1) しおりをはさんで本をとじる。
(2) 家族で神社にさんぱいする。
(3) 夜空のせいざをながめる。
(4) 新聞や雑誌を束にしてしばる。
(5) 地域の伝統行事を重んじる。

| (1) | (2) | (3) | (4) | (5) |
|---|---|---|---|---|
| じる | | | | |

**2** 次の【歴史的仮名づかい】を参考にして、【古文1】～【古文3】の――線の読みを書きなさい。（10点×4）

**【歴史的仮名づかい】**

◆言葉のはじめ以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」と読む。
（例）つかひけり→つかいけり
◆「ぢ」は「じ」、「づ」は「ず」と読む。
（例）よろづ→よろず
◆「ゐ」は「い」、「ゑ」は「え」と読む。
（例）うゐのおくやま→ういのおくやま
◆「を」は「お」と読む。
（例）をぐらやま→おぐらやま
◆ローマ字で書いたときに「au」の部分は「ou」と読む。
（例）まうす（mausu）→もうす（mousu）

**【古文1】**

今は昔、竹取の翁と①いふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、②よろづのことに使ひけり。

（竹取物語）

今ではもう昔のことだが、竹取の翁と呼ばれる人がいた。野山に分け入って竹を取っては、いろいろなものを作るのに使っていた。

| ① | ② |
|---|---|
| いふ | よろづ |

【古文2】

つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて、心にうつりゆくよしなし事を、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそ③ものぐるほしけれ。

（徒然草）

することがなく、退屈であるのに任せて、一日中、硯に向かいながら、心に次々と浮かんでは消えていく、とりとめもないことを、何というあてもなく書きつけていると、妙に心が乱れて、落ち着いていられないことよ。

③ ものぐるほしけれ

【古文3】

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。船の上に生涯を浮かべ、馬の口④とらへて老いを迎ふる者は、日々旅にして旅をすみかとす。

（おくのほそ道）

月日は永遠に旅を続ける旅人のようなものであり、過ぎ去っては新しくやってくる年もまた旅人に似ている。一生を舟の上で暮らす船頭や、馬のくつわを取り、（人や荷物を運ぶ仕事について）老年を迎える馬子などは、毎日が旅であって、旅そのものを自分のすみかとしている。

④ とらへて

## 3 【和歌1】～【和歌3】の――線の読みを書きなさい。（10点×4）

【和歌1】

①淡海の海夕波千鳥汝が鳴けば心もしのに古思ほゆ

柿本人麻呂

琵琶湖の夕波に鳴く千鳥、おまえが鳴くと、心がしおれてしまいそうなほどに昔のことがしのばれる

① あふみ

【和歌2】

②くれなゐの二尺伸びたる薔薇の芽の針③やはらかに春雨のふる

正岡子規

紅色の六〇センチメートルほど伸びた薔薇の新芽の、まだしなやかな針に、春雨が降っている

② くれなゐ

③ やはらかに

【和歌3】

古池や④かはづ飛びこむ水の音

松尾芭蕉

ひっそりと静かな古池に、蛙の飛びこむ水の音が聞こえた

④ かはづ